

# 旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部  
会員向けニューズレター  
発行人 古川 彰久  
事務局 〒252-0321 神奈川県  
相模原市南区相模台1-23-9  
Tel.&Fax.  
042-748-8240  
<http://www.jouhan.com>  
E-mail: info@iki2life.com

## 5月例会ご案内

日時 : 5月14日 木曜日  
18:30 ~ 20:30  
テーマ : 城野先生の著書から学ぼう  
「第三の経済学」を輪読しよう  
場所 : 港区立商工会館  
参加費 : 1000円  
担当 : 古川 彰久

城野宏著「第三の経済学～『経済学』の崩壊と新生」を参加者で輪読し、情勢判断学を活用してどのように経済問題に対し取り組むことができるのか、お互いに学びましょう。

著書は定価2,700円(税込)ですが、参加者には特別価格1,000円(税込)でおわけします。

城野先生は、この書の序文を昭和48年3月22日に書かれているが、その序文の末尾に、以下のように述べられている。

「これは問題提出の書であるといえる。解決の具体的戦術書ではない。読者は提出された問題とその方法論を参考にし、各方面の具体的問題を取り上げ、究明してもらいたいと思う。そして、日本国民がそれにのっとして国家の繁栄と国民のしあわあえをうちたてていく経済の法則性を探り、新しい日本経済学を建立すべきである。企業の中の経済活動家も戦略方向に合致した仕事だけが栄えるものであることを認識できるはずである。」

そして、目次は以下の通りです。

序  
国家戦略と経済問題  
国家経済戦略の転換点  
日本経済観察の出発点  
アラブ・アフリカ認識の転換と  
新しい日本国家戦略  
ドル防衛と日本  
工業農作の展開  
円・ドル問題の精神構造  
円切り上げと日本経済の基本構造  
経済論争と国際謀略  
経済問題判断基準の転換  
経済学の崩壊と新生  
経済観察における戦略欠乏症  
日中国交正常化後の日本経済  
狂った経済論議  
インフレと経済成長  
インフレと大衆収奪  
国鉄ストと国民大衆  
商社活動の戦略的分析  
二つの経済学——総括提案

以上の内容ですが、この書を輪読し、現在の経済にも当てはめ、どのように活用できるかお互いに大いに論議しましょう。

# 3月例会報告

日時 : 3月12日 木曜日  
18:30 ~ 20:30  
テーマ : 「マネジメントシステム (以下MSと略)  
の現状と今後の課題」  
場所 : 港区立商工会館  
担当 : 飯田 豊

今、ISOは形骸化しているとの評判があります。現実認証件数は、日本では下がっております。減少しているおもな理由は、①流行が過ぎてもういいという面もあるでしょう。(維持コストがかかる) ②リーマンショック、東北震災で企業活動ができなくなった。③また事業統合やシステムの統合(各事業所単位の取得から、会社として統合) ④建設業界の縮小が考えられます。

独断的ですが、私の20年にわたる審査活動を通じて感じたことや経産省が平成25年にまとめた「日本工業標準調査会 標準部会・適合性評価部会 管理システム規格専門委員会・・・」中間とりまとめ等に記述した内容なども盛り込み報告しました。

お話しする骨子をまとめました。

## 1. MSの歴史

調達要求事項(軍機関)→品質保証(原子力用・航空機用)→品質MS→環境MS→各分野へ拡がり。

(セクター規格:自動車、航空機、食品、道路交通安全、医療機器、情報セキュリティ等々)

また各規格の整合をもたせるため、共通化として、HLS (High Level Structure) 構造にして、MSの統合化を図っている。品質、環境共に2015年に規格の改訂が進められている。

HLS構造:規格の要求構成を共通化する。

## 2. MS認証取得数

世界的には、中国、イタリアの伸びで、2013/2012比では、品質+3%、環境+6%と増加している。また食品、セキュリティ、医療機器は14~15%伸びている。

一方日本では、ピークより品質約40%、環境約30%の低下がみられる。その理由は上述したものと推測される。

## 3. 認証する仕組み

JAB:公益法人日本適合性認定協会が、審査機関を認定する。審査機関が(60余機関)が各組織(会社、事業所、工場)を審査して認証し、登録証を発行する。(1年毎の定期審査及び3年毎に更新審査が必要)

## 4. 品質マネジメントシステムの活動報告書

### ・MSの企業の位置づけ

動的な組織と静的な組織に分類される。前者はISOを課題解決のツールととらえ、後者はISO取得が目的になっている。前者の方が、企業として伸びていることは言うまでもない。

### ・MSのメリット

- ① ルールの整備/業務の整備/ノウハウ標準化/監査の効用(企業行動への影響力)
- ② 対外的な信用度や評価の向上
- ③ 事務改善のきっかけ。経営の効率性の向上
- ④ 戦略の実現性を高める等があげられる。

### ・MSのデメリット

- ① 形骸化。変化の限界年数(3~6年)
- ② 認証取得のみでは、もはや優位に立てない。
- ③ マネジメント成果の把握と評価の難しさ、士気の低下。
- ④ コスト(資金面・人材面)の負担大。

### ・認証取得理由

- ① 企業イメージ向上のため
- ② 取引先の認証取得
- ③ 品質向上のためのMSの構築
- ④ 同業他社の認証取得

### ・MS取得後役立ったこと

- ① 作業の標準化
- ② 事務手順書の整備
- ③ 対外的な信用度や評価の向上
- ④ 業務改善や効率化
- ⑤ 従業員の自覚や認識の向上
- ⑥ 経営戦略目標の達成 等々

### ・企業にとってMSはどうあるべきか

- ① MSは「組織全体の変革のためのもの」
- ② 「変革・改善」といった動的な機能を期待している。
- ③ 全体か現場かといえば、全体を志向している。

- ・事業競争力強化に資する取組の方向性
  - ① コストを上回るメリット感
  - ② 規制・ノルマを超えた自発的改善
  - ③ オリナルティを生み出すインセンティブ
  - ④ 統合MSの有効活用
  - ⑤ グループ単位の取組推進
  
- ・事業競争力の観点での成功事例の紹介（5事例）
  
- ・まとめ
  - 審査機関の問題：
    - マーケットが縮小する中、良い審査サービスや新しいサービスの提供（価格競争力激化、審査員の質確保）
  - 組織の対応
    - 動的な組織を目指すためには、経営層が率先し、MSを経営ツールとして活用。
  
- ・具体的な活動
  - 品質・環境目標を明確に示す（経営層）
  - PDCA（計画・実行・評価・アクション）の観点で管理する。
  - 内部監査を形だけでなく、厳格に実施する。
  - 是正活動、リスク対応を実行する。

